

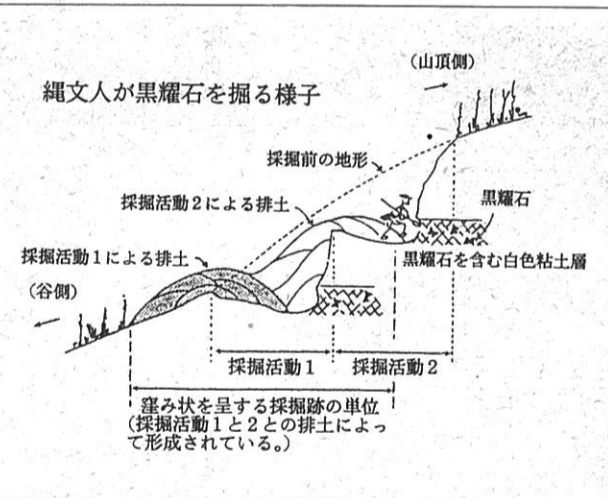
全国から注目!

黒耀石の採掘跡発見

鷹山の星糞峠



鷹山鉦山の発掘現場



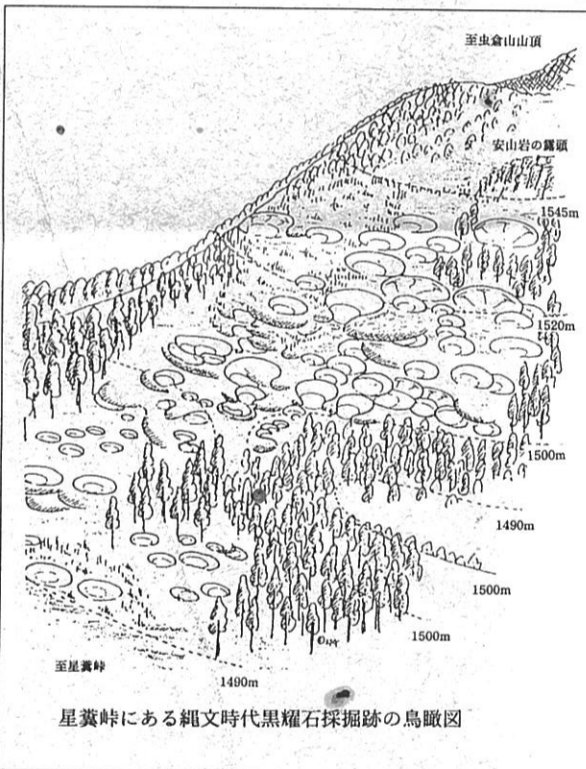
プランシユたかやまスキー場がある長門町鷹山には鷹山遺跡群があるが、この北側の星糞峠から虫倉山にかけての山林斜面に黒耀石のかけらがたくさん落ちていたことがよく知られていました。黒耀石の広がりやを調べるため山林の内部を調査したところ、その範囲と重なるようにしてすり鉢状の窪みが確認され、ここで昔、黒耀石を採掘していたことが発見されました。窪みは最初、峠道の近くに約十三個が確

認されました。その一つのまん中を1m×1mの溝を掘って土中の様子を調査したところ縄文後期、今から約三千年前の人達がこの一帯の黒耀石を掘り出し、掘った穴が埋まりきらないで現在のような窪んだ地形が残されたことがわかってきました。そして、その採掘跡は標高1490mから1550m付近の斜面全体に広がっており、斜面の下方から上方に

向かって掘り進んでいった様子もわかってきました。このように黒耀石を掘り出した採掘跡は下諏訪町の星ヶ塔遺跡にも発見されておりま

でも最大規模の縄文鉦山の発掘として脚光を浴びることになりました。採掘跡そのものの発掘調査は、全体の地形や、窪みの広がりやを地図に表す測量調査を終

つてから、本格的に進めていく予定です。このような大規模な黒耀石の鉦山を残した当時の人々は、どこから来てどんな人たちだったのでしょうか。また、大量の黒耀石はどの様に掘り出され、どこへ持ち出されていたのでしょうか。これからの調査には、縄文時代のイメージを塗り替えるような、たくさん発見があると期待が寄せられています。



星糞峠にある縄文時代黒耀石採掘跡の鳥瞰図

今年のは、野鳥にくわしい友人におそわり、鳥も少しおぼえました。ヤブサメ、エナガ、ヒガラなどのカラの仲間、コゲラなどのケラの仲間、タビの鳥たちが、目の前の林に風のように来、しばらく遊んでまた去っていくのは、一日ぼんやり見ていてもあきないでしょう。こんなにすばらしい山林をわたしたちに提供してくださったこと、本当にありがたく感謝致しております。

美しい松の思い出 特別に、管理事務所、無人売店、テニスコートをめざしてちょっとでも近道を通るようです。花や鳥を見るためにちょっと入るのはまだしも(本当はそれもやめた方がいいのでしょけれど)通り路にしてしまふのはよくないと思います。美しい松の思い出が、道端でなく、花や鳥を見るためにちょっと入るのはまだしも(本当はそれもやめた方がいいのでしょけれど)通り路にしてしまふのはよくないと思います。

残暑が厳しい毎日ですが皆様お元氣のことと存じます。度々「長門の風」をお送りくださりありがとうございます。すみからすみまで読んで楽しんでおります。今年の夏は、長期に滞在できませんでしたが、七月下旬と八月下旬に三、四日ずつ美し松に参りました。東京に電話をすると「暑くて暑くて」と誰もが言うのに美し松では、涼しくさわやかな毎日です。しんから体が休まりました。そして散歩しますと、あちこちに美しい素朴な草花。待宵草、ほたるぶくろはもちろん、萩、ワレモコウ、ソバナ、フシグロセンノウ、クサフジ、ウツボグサ、コマツナギ……数えたらきりがありませんね。ツリフネソウ、キツリフネ、マツムシソウの群生もあちこちに見られ、あれが我が家の庭にあったら……と、他人の芝生(でなく、敷地)がうらやましくなったり。それから、ヤグルマソウや、ベニバナイチヤクソウの群生も木陰に見えかくれますね。

美しい松の思い出 美しい松の思い出が、道端でなく、花や鳥を見るためにちょっと入るのはまだしも(本当はそれもやめた方がいいのでしょけれど)通り路にしてしまふのはよくないと思います。美しい松の思い出が、道端でなく、花や鳥を見るためにちょっと入るのはまだしも(本当はそれもやめた方がいいのでしょけれど)通り路にしてしまふのはよくないと思います。

をあげ



今年の松まつり

朝市
〈姫木地区〉
恒例となりました朝市ですが、今年7月31日から8月21日まで、美し松入り口広場で、朝9時より毎日開かれます。地元産の野菜や、手工芸品、その他にさまざまな品物を売っていますので、皆様のおこしをお待ちしております。

朝市
姫木地区は 7月31日～8月21日
学者村は 8月14日

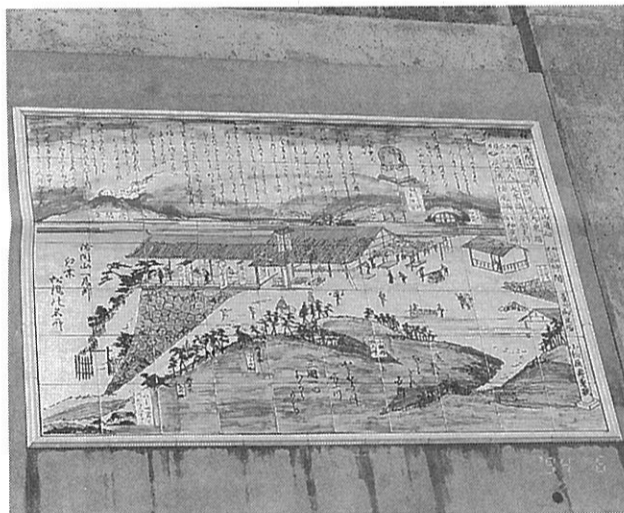
祭り
学者村は 8月6日
美し松は 8月12日

△美し松まつり
第8回美し松まつりは8月12日(金曜日)、午後4時～8時まで行われます。焼きとうもろこし、バーベキュー、模擬店の他楽しいイベントも行われます。

学者村管理センター前に壁画が登場

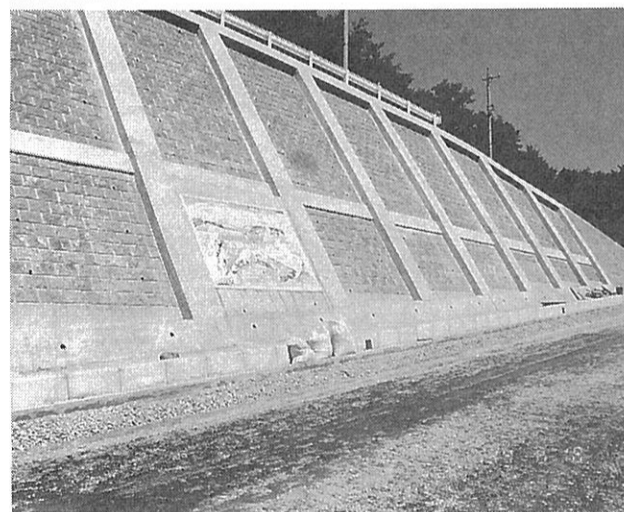
笠取峠バイパスの改良工事で

長久保の竹内家所有の版木をカラーに



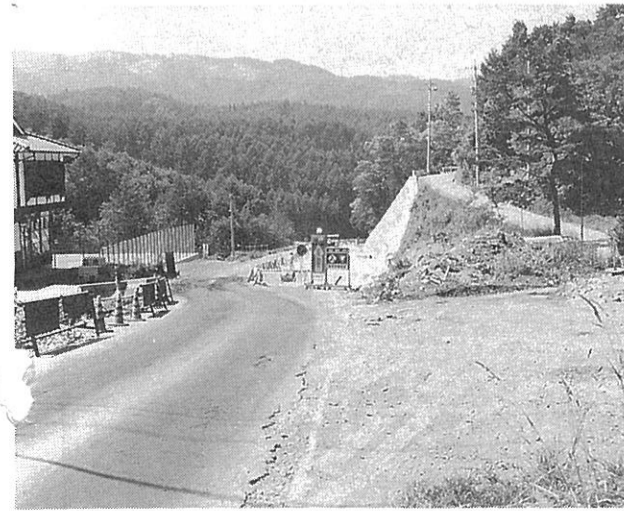
長門の風第16号でも紹介しました、国道一四二号笠取峠バイパスの改良工事も大分進み現在学者村管理センター前が施工中です

この壁画は、長久保



宿の竹内家(金鳴屋)が、テニスコート前のブロック積み法面に、縦2m、横3mのタイ

この壁画は、長久保の竹内家(金鳴屋)が、テニスコート前のブロック積み法面に、縦2m、横3mのタイ



立岩和紙の「ふるさとセンター」

立岩和紙で知られる長門町立岩のふるさとセンターは、夏の観光シーズンのピークを迎えている。同センターの年間売り上げ

の三分の一を七、八月で占めるとい

【写真上】を新築、三月に完成した。建物は鉄骨木造併用一階建て、三百九〇、総事業費約七千万円。二百四人が体験でき本館の

販売コーナー、紙す

わう。町は同敷地内に紙すき体験館

四十六人と合わせ、二百五十人の団体を受け入れられる。料金は三十cm×四十cmの大きさで一人九百円。十人以上八百円。同センターには食堂、和紙、特産物の

修学旅行や林間学校 団体で大にぎわい



き実演室などがある。ひきたての地粉で打ったそばは人気メニュー、和紙で作った和紙人形、うちわ、菓子鉢、葉書はおみやげとして好評だ。また、木の葉、こうぞの皮、そばがらをすき込んだ和紙も珍しい。

実習室では立岩和紙をすく貴重な一人である、高柳一さん(61)の紙すきを見学し、説明を聞くことができる。

TEL 0268・68・3874

生ごみと燃えるごみ

自家処理を



不燃ごみは

分別して

別荘地内でのゴミ処理については、別荘だよりを通じて再三にわたり、お願いをしてまいりましたが、依然として守られず、処理に関し管理人が大変苦勞をしております【写真】。

このような状態が続けば、本来の管理業務が停滞することとなり、決まりを守らない一部の人の為に、きちんとした多くの人々に迷惑がかかります。

また、快適な別荘生活を望まれて来られた方々も、ゴミの山では、うんざりしてしまいます。

せっかく求めた別荘地を皆で、美しく、快適な憩いの場となるよう徹底した処理にご協力下さい。

快適な別荘ライフへ

協力をお願いします

生ごみ・燃えるごみの処理のしかた

- 生ごみ (別荘地内でコンポストか埋め立て処理)
 - 燃えるごみ (別荘地内へ焼却炉を設置し処理)
 - 生ごみのコンポスト (一基5,000円) 焼却炉 (一基24,000円) で斡旋します。
 - 不燃ごみ (アルミ缶・スチール缶・ビールびん・酒びん・その他の不燃物) に完全に分別して お出し下さい。
- } 自家処理して下さい。



投稿

都会との気温を比較してみる

熱帯夜のない美し松

午後一時すぎるとどんどん下降
午後一時すぎるとどんどん下降
同じ経過で下がっています。7日になるとやや夏型になり、日中は一時26度をさし、日なたで帽子が必要になりましたが日陰に入れば本当にすっきりした暑さです。

〔都会との温度差〕

今年の夏、孫達の理科の研究?とやらにつきあって美し松に滞在中、この涼しさとはどんな温度なのか測ってみました。例えば8月6日、午後6時、17.8度。正午24.8度。日没の午後6時過ぎ、20.4度でした。美し松、標高約1400mの地上3m、日陰で1/10度まで読み取れる精密な温度計で測ったものです。

〔気温の変化〕

8月4日台風が四国地方から日本海に抜け、オホーツクの涼しい高気圧が関東地方まで張り出したため気温がぐっと下がり、美し松で夜濃い霧がたち込め寒い位になったためストーブをつけました。(ウソー!いいえ本当です) 5日はこの影響がまだ残っていて朝方は16度位、日が高くなるにつれて気温はぐんぐん高くなりましたが、それでもお昼頃に24度位が最高で、これ以後どんどん下がって6時頃には20度、夜の9時には17.8度で子供達は夏の盛りにはフットンをかけて寝るといふ東京では考えられない夢のような夜になりました。次の6日も午前はやや高めで12時頃は24.8度まで上がりましたが殆んど5日と

	最高温度	最低温度
8月5日	25.9	19.0
8月6日	31.2	23.2
8月7日	32.8	25.5

これによくわかるように7日など約7度位の差があることになりいかに美し松が涼しいかわかります。

夏万才!美し松(平成5年夏)



山荘での生活で、最も嬉しいことは、自然との共生である。植物も動物も、私たち人間の心が、優しければ優しいだけ、必ずそれに応えてくれる。そういう中で、古代から人間と関わり合ってきた植物が身近にあつて、それに親しめることが何と云っても、山荘生活のよさである。古代の歌集である『万葉集』の中に詠まれている、長門の植物のいくつかを目を留めてみよう。

長門の万葉植物(1)

つゆくさ ふたりしずか
学者村第二期 鈴木二千六

ちが、いかに自然と親しく対し、そして、そ

の自然に託して自らの心を表出しようとしていたかが分かるのである。今回は、そのうちの五種を取り上げてみた。

◆つゆくさ
朝咲き夕は消ぬる鴨頭草の消ぬべき恋も吾はするかも
(巻十一・二九一)
「つゆくさ」は、ツユクサ科の一年草。今の「つゆくさ」のことである。一首は、「朝咲いて夕消えてしまふつき草のように、身も心も消えいりそうな苦しい恋をわたしはすることです」ほどの意。「朝咲き夕消ぬる鴨頭草の」ま

では、「つゆくさ」の特徴であるはかなさに依つた序である。「つゆくさ(つゆくさ)」は、夜明けとともに開き、昼前には閉じてしまふ。古く「つゆくさ」と言つたのは、衣に色がつかず草として、摺染めに用いたことによると思われれるのであるが、それにしても、本格的な染料ではないから、すぐに色あせてしまふ。そのようなところを、古代の人たちは、この花を「はかない」という思いを表すやすうとしたのであろう。この「つゆくさ」、今で言う「つゆくさ」は、

山荘生活の朝を演出してくれる。朝寝でもしよものなら、今の私たちに、古代の人たちの心を見せてはくれない。夏の早朝の楽しみである。

真澄鏡に あきづ領巾 負ひ並め持ちて 馬買へわが背(巻十三・三三三・三四)
「つぎね」は、センリウ科の多年性草本。今の「ふたりしずか」

のこである。「つぎねふ」は「山城」にかかる枕詞なのであるが、「つぎねが生える」「嶺々がつづく」の解がある。しかし、ここでは、歌の趣から「つぎね(ふたりしずか)」が生える道とつづくおこ。一首は、「つぎねの生えている」山城への道を、他のひとの夫は馬で行くのに、私の夫は歩いて行く。それを見たと泣けてならない、それを思うと心が痛む。母の形見として持っている真澄の鏡とあきつの中を持っていて、馬を買いたくない、夫よ「ほどの意である。」

夫を思う妻の心が、痛いほど伝わってくる。やはり「つぎね」は、「ふたりしずか」がよいと思わざるを得ない。この長歌には、反歌があるが、その一つに、馬買はば妹歩行ならむよしややし石は履むとも吾は二人行かむ(馬を買ったならば、私はいが前さんは歩きだ。いいよ、石を踏んでお前さんは二人歩いていこう)

この四月に人事異動により、企業課長としてお世話になることになりました。小林公治 新企業課長

余暇の増大により長期滞在型リゾートのベースキャンプ地として、通年で別荘をご利用になるお客様が年々増えてきておりますので、皆様方に別荘での生活をより快適に過ごして頂くよう、別荘管理に関係職員と共に努力したいと思います。よろしくお願い申し上げます。(つづく)

投稿

住み良い学者村を願って

雑木は残そう

●挨拶もできない運転者に
学者村の道路は広くない。それゆえ乗用車でもすれ違いができません。場所では、こちらが広い場所に止まって待っている。その横を通り過ぎる運転者はなんの挨拶もせず自然と

●立木は学者村の貴重な財産
別荘を建てる時、立木はできるだけ切らないように、建築案内に書いてある。しかし、それが守られていない建築が目につく。建築業者は立木が邪魔になると、どうしても切らなければならないように説得するのは施主の責任でもある。とくに、なら、くぬぎ、白樺などのいわゆる雑木は、木材としての価値はないが、山林としては貴重な存在である。雑木林があつてこそ、山林の美しさと同時に、治山治水の重要な役割を持っている。当たり前のことであるが、このようにしてしまえばそれまでであるが、このように山道でも糞の始末をちゃんとしていく心がけに頭の下がる思いがする。(学者村の一住民)

●路上駐車
学者村の別荘には自家用車で来る人がほと

●良い話
何か悪いことばかり書いてきたが、頭の下がるようなこともあ

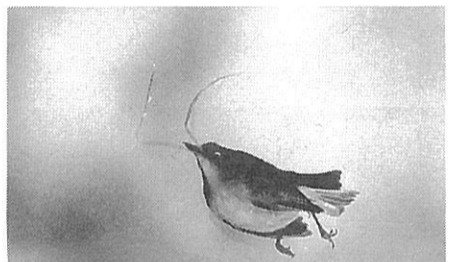
●最後に、学者村管理センターの管理人さんたちである。この広い学者村を少ない人数でいろいろ面倒を見てくれる。その大変さはあまり知られていない。管理人さんたちの動きを見れば、聞かなくても分かる事である。余分な負担をあまり管理入さんたちに掛けないように、できるだけ自分で処理するようにすることも、学者村で気持ちよく暮らせることにつながる一つの条件と思つている。

●編集後記
郷里の大きな期待を担って登場した羽田孜総理大臣も、二カ月前で退陣。いま、再登板を願っている地元住民も多い。七月十日には長門町の基礎を築いた小林茂夫翁の町葬が町民体育館でしめやかに執り行われた。

時代は変わつていく。政治の世界ではバラダイム(枠組み)の大転換の時代に入つていく。経済の分野ではマルチメディアとか新映像産業とか、新しい言葉がポンポン飛びか



ふたりしずか



ビニールひもを飲みこみ死んだウグイス

学者村に居を構え長門町の住民として5年が過ぎた。四季を通して自然の移り変わりは、長いこと故郷信州を離れて生活してきた小生にとって、子供の頃の情景がそのまま残っており、心安らぐものである。しかし、人が住むと日常的に色々なことが起こる。そのなかで、学者村の別荘に来るいわゆる都会人の生熊のいくつかをあげ、反省すべき点は直し、お互いに心地よく過ごせる学者村であつてほしいと願つたものである。

●挨拶もできない運転者に
学者村の道路は広くない。それゆえ乗用車でもすれ違いができません。場所では、こちらが広い場所に止まって待っている。その横を通り過ぎる運転者はなんの挨拶もせず自然と

●立木は学者村の貴重な財産
別荘を建てる時、立木はできるだけ切らないように、建築案内に書いてある。しかし、それが守られていない建築が目につく。建築業者は立木が邪魔になると、どうしても切らなければならないように説得するのは施主の責任でもある。とくに、なら、くぬぎ、白樺などのいわゆる雑木は、木材としての価値はないが、山林としては貴重な存在である。雑木林があつてこそ、山林の美しさと同時に、治山治水の重要な役割を持っている。当たり前のことであるが、このようにしてしまえばそれまでであるが、このように山道でも糞の始末をちゃんとしていく心がけに頭の下がる思いがする。(学者村の一住民)

●路上駐車
学者村の別荘には自家用車で来る人がほと

●良い話
何か悪いことばかり書いてきたが、頭の下がるようなこともあ

●最後に、学者村管理センターの管理人さんたちである。この広い学者村を少ない人数でいろいろ面倒を見てくれる。その大変さはあまり知られていない。管理人さんたちの動きを見れば、聞かなくても分かる事である。余分な負担をあまり管理入さんたちに掛けないように、できるだけ自分で処理するようにすることも、学者村で気持ちよく暮らせることにつながる一つの条件と思つている。

●編集後記
郷里の大きな期待を担って登場した羽田孜総理大臣も、二カ月前で退陣。いま、再登板を願っている地元住民も多い。七月十日には長門町の基礎を築いた小林茂夫翁の町葬が町民体育館でしめやかに執り行われた。

時代は変わつていく。政治の世界ではバラダイム(枠組み)の大転換の時代に入つていく。経済の分野ではマルチメディアとか新映像産業とか、新しい言葉がポンポン飛びか

てお世話になることになりました。小林公治 新企業課長

余暇の増大により長期滞在型リゾートのベースキャンプ地として、通年で別荘をご利用になるお客様が年々増えてきておりますので、皆様方に別荘での生活をより快適に過ごして頂くよう、別荘管理に関係職員と共に努力したいと思います。よろしくお願い申し上げます。(井出正義)

余暇の増大により長期滞在型リゾートのベースキャンプ地として、通年で別荘をご利用になるお客様が年々増えてきておりますので、皆様方に別荘での生活をより快適に過ごして頂くよう、別荘管理に関係職員と共に努力したいと思います。よろしくお願い申し上げます。(井出正義)